

うらおそい歴史新聞



第19号
平成27年
2月

浦添グスクで発掘現場見学会が開催されました！

浦添グスクの発掘調査でグスク南側斜面から新たに城壁が発見され、2月1日に発掘現場見学会が行われました。

浦添市文化課では毎年浦添グスクの発掘調査を継続的に実施しています。

このたびの発掘現場見学会は外郭南側の石積みの発見以来、3年ぶりの見学会となりました。今回の発掘調査は昨年の10月から進められ、調査の結果、布積みの城壁が姿を現わしました。

見学会当日は、市内外から280名余りの人々が参加され、興味深く担当職員の説明に聞き入っていました。現場では見学者が見やすいように足場が組み立てられ、現場から出土した遺物も展示されるなど丁寧に発掘現場の状況が説明されていました。

那覇市から参加された久高さんは「時間はかかるようですが、城壁が露わになるところに興味を惹かれます。更に

西側に延びるであろう城壁の繋がりが待ち遠しくなりますね」と感動した面持ちで話してくれました。古のロマンを掻きたてるにふさわしい見学会は、好天に恵まれ賑わいました。(栗森)



発見された城壁の石積み

浦添グスクの内郭西地区で確認されていた石積みの南側はこれまで未発見でした。今回の発見は、グスクの輪郭を明らかにする上で重要な発見です。



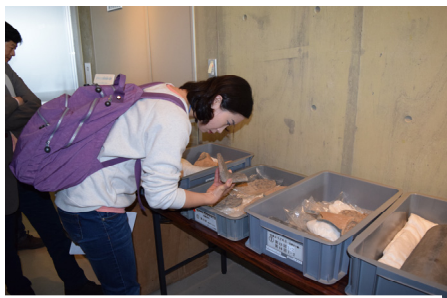
城壁近くから出土したイヌの骨

城壁のすぐ近くからイヌの骨が発見されました。グスク時代のイヌの骨が全身の骨格がわかるかたちで出土するのは珍しいそうです。

韓国の考古学者の先生方がようどれ館に来訪しました！

1月31日・2月1日両日で沖縄県立博物館・美術館で開催された「九州考古学会・嶺南考古学会合同学会」にあわせて韓国の考古学者の先生方約80名が来沖し、浦添グスク・ようどれ館を訪問しました。

ようどれ館では、浦添グスクと朝鮮半島との繋がりを示す高麗系瓦の出土品を見学され、皆さん熱心に見入りながら議論を交わしていました。また見学者の多くの方々には、ハングルの字幕が表示される館内の映像プログラムが好評で、理解を深められたようです。



高麗系瓦を見る見学者

高麗系瓦は朝鮮半島の技術で造られた瓦です。浦添グスクから沢山出土しています。ようどれ館では実物を展示していますので、ぜひご覧ください。

浦添グスク・ようどれ館

【開館時間】
午前9時～午後5時

【入館料】

大人（高校生以上） 100円
小人（小中学生） 50円

※市内小・中学生は無料

【休館日】月曜日・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53-1

【電話】098-874-9345

【アクセス】

琉球バス交通 牧港線（55番）
仲間バス停から徒歩5分

※浦添グスク・ようどれ館を中心に浦添の史跡・文化財の案内を致します（有料）。時間・コースも相談できます。お気軽にお問い合わせ下さい。

※浦添大公園の南エントランスにグスクや市内文化財を紹介する展示コーナーもありますので、あわせてご覧ください（ガイドの解説あり）。

